

緊急リサーチ!!

あなたの舞台・お稽古

# マスク事情

2021. 07

完全版

はや1年半にも及ぶコロナ禍、未だにマスクの手放せない日常が続いていますが、演奏会等の舞台や普段のお稽古も感染防止対策をとりながら徐々に再開されてきました。

一般社団法人長唄協会 広報委員会ではこの度、一部の協会員の皆様のご協力を頂き、舞台やお稽古で使用しているマスクや、感染防止対策についてのアンケートを実施、その結果様々な工夫やご苦労のあることが見えてきました。唄方、三味線方、囃子方、笛方の各パート（職分）ごとに頂いた回答をまとめると共に、各職分ごとの特徴的な回答を取り上げて参ります。また、感染防止対策用のオリジナルマスクやグッズ、お稽古場の写真もご紹介します。アンケートにご協力いただきありがとうございました。

## 舞台・演奏会

**Q** 舞台や演奏会で着用しているものは何ですか？

共通回答（職分に限らず複数の回答があったもの）

- ・不織布・ウレタン・布等のマスク
- ・舞台用の黒（紺）布マスク（歌舞伎公演等で使用されているもの）
- ・唄方・三味線方はマウスシールド、フェイスシールドを使用するという回答が多い一方、囃子方、笛方は楽器が当たるなどの理由で使用できないとの回答あり
- ・眼鏡を使用している方は、眼鏡が曇らないような位置にマスクを着用したり、眼鏡に曇り止めを塗る

唄

- ・不織布マスクの下にマスクフレームを入れ、マスクが口に張り付かないよう工夫

三味線

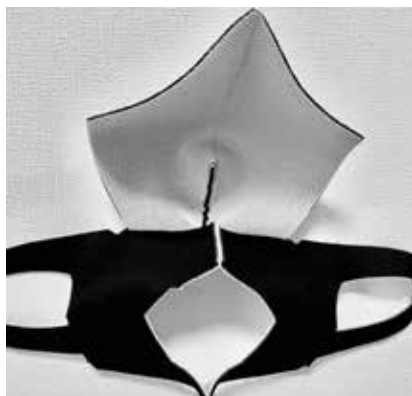
- ・不織布と布の二重マスクや、ノーズワイヤーを入れてずれないように工夫

囃子

- ・出囃子演奏時は鼻から下を覆う舞台用の黒（紺）布マスク、黒御簾演奏時は黒の不織布等のマスクと使い分けて着用

笛

- ・市販のフルート用マスク



フルート用マスク

**Q** 鼻から下を覆う「舞台用の黒（紺）布マスク」（歌舞伎公演等で使用されているもの）について教えてください。

Q1. 補助として何か使われていますか？

唄

- ・裏にクレンゼ（抗菌・抗ウイルス機能の化学繊維）

のマスク裏地をつけると、息を吸った際、布を吸い込みにくい

- ・立体的になるよう、内側にフレームを入れて使用



マスク用のフレーム（インナーマスク）



舞台用布マスクの内側にフレームを固定



マスクの下にホックがついており、このホックを留めることでマスク下部が筒状になる。舞台用布マスクは胸ぐらまでの長さがあるので、筒状にしたほうが体に張り付かず、音の通りがよくなる



右（紺色）・歌舞伎で使用されている松竹衣装の布マスク。  
左・シルクサテン地で不織布入りの合唱用マスク。ワイヤーが3本入っている（縦に1本/鼻筋に合わせて前にせり出し、口に布地が触れないように空間を作るワイヤー。横に2本/鼻の上に固定するノーズワイヤーと、頬のあたりに空間を作る補助用ワイヤー）

**三味線 囃子**

- ・そのまま使用するか、下に不織布マスクの併用
- ・青や紫の縮緬で、髪型が崩れないよう紐を工夫し、手作りで製作、使用している方も



手作りの舞台用布マスク。紐にも工夫

**笛**

- ・口元と布マスクとの間に空間ができるように、何かしらの工夫をしている（ノーズワイヤー、ダブルクリップ、ノーズクッション、スポンジなど）



ノーズクッションを使用



ダブルクリップを使用

**Q2. 着用した際の苦勞などを教えてください。**

**共通回答（職分に限らず複数の回答があったもの）**

- ・下が見にくい・目にかかる・息苦しい・暑い・落ちないか心配・紐で引っ張られ目が疲れる

**唄**

- ・耳の上に紐を通すので目元に上がってきってしまうが、耳の下では安定しない。今は緩めにしてギリギリ鼻が隠れるぐらいの位置で着用

**三味線**

- ・いつもより隣と離れていることもあり、演奏しにくい

**囃子**

- ・小鼓の調子をつけるのに邪魔→生地が長いものや、

裾がすぼんでいるものは特に調子をつけにくいので使用しない

- ・息を吸うと布がくっついてしまうことがある
- ・視界が狭くなり舞台上のきっかけや隣の人の手の動きなどが見にくく、感覚がうまくつかめない

**笛**

- ・吹きにくい、息を吸いにくい
- ・音の感覚がかわり、自分の音も分かりにくい
- ・下が見えないので楽器を手に取る時に不安で苦勞する
- ・かまえる際にも手間がかかり、タイミングを早くしなければならぬ
- ・歌口に布が被さり、突然音が出なくなったことがある

**Q 舞台での感染対策やマスク着用に関するご意見などをお聞かせください。**

**唄**

- ・舞台用黒布マスクは、あごが拘束されないのが普通のマスクよりも唄いやすいが、その分並びの方やお囃子さんへの飛沫を防いでいるかは微妙なところであり、また自分を守ることもできていないので、あくまでもお客様に対するパフォーマンスと考えている

**囃子**

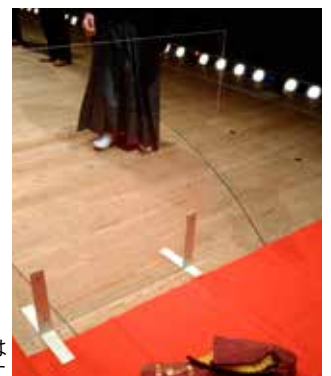
- ・山台の手下下段に並んだ時、上段の唄の方から降り注ぐ飛沫には少し恐怖をおぼえる
- ・マスク類は掛け声を出すのにデメリットがある
- ・笛の横にアクリル板を設置

**その他全般**

- ・女性の場合、舞台用にセットした髪型ではマスクを耳にかけられない時があり、マスクバンドやピンを使いマスクを着用
- ・夏でも快適で蒸れない演奏用のマスクができて欲しい
- ・最近では舞台でマスクを着用しないことも多いが、逆に外すのを忘れ、マスクを着けたまま舞台に出してしまう方がいることも
- ・歌舞伎、能狂言、宝塚歌劇、寄席で演者は舞台の前方でマスクをせず、大きな声を出し、歌い、踊っているのに、客席から離れた後方の演奏者がマスクを着けるのが理解できない
- ・マスクやアクリル板など目に見える対策に気持ちが向きすぎているが、根本的な免疫力をつけることも重要
- ・舞台は客席との距離を取り、お客様には静かに鑑賞して頂き、時折換気する。それだけで十分に感染対策できる気がする



横笛シールド。コロナ禍でこんなグッズも登場



舞台上でもアクリル板は欠かせなくなった

## お稽古

### Q お稽古での 感染予防対策について。

全般（職分に限らず、お稽古場での対策まとめ）

#### Q1. どんな対策をとられていますか？

- ・多くの方がマスク、アルコール消毒、手洗いを基本とし、換気に気を配り、広い部屋でソーシャルディスタンスを取りながらの稽古をされており、アクリル板やビニールシート、空気清浄機、マウスシールド、フェイスシールドなどもそれぞれ利用しながらお稽古に臨まれている



光触媒などハイテクな除菌・空気清浄機をお稽古場に設置

- ・リモートで稽古をされている方も半数ほどいらしたが、リモート稽古を希望し挑戦するも、パソコンやスマホ等の機器に不慣れだったり、音のズレなどの理由でなかなか実現は難しいという意見もある
- ・一人一人のお稽古時間やインターバルを充分に取りお弟子さんが重ならないようにしている
- ・人が変わる度に机や椅子、譜面台などを消毒する
- ・合成皮革の小鼓を使用し、除菌液で拭き感染防止に努めている
- ・サーキュレーターやロスナイ換気の使用、光触媒除菌機などの導入

- ・CO<sub>2</sub> 測定器の使用を検討
- ・使用する楽器（三味線）は各自が管理し、複数で使わない

#### Q2. お稽古の際に工夫していること、 苦労している点などを教えてください。

- ・換気のため稽古場の入り口も全開にしており、春夏秋冬の着物をリメイクした長暖簾をかけたたりして工夫している
- ・緊急事態宣言やまん延防止措置などが出ている間はもちろん、感染者の多い時は自主的にお稽古は中止としたため、実質ほとんどお稽古ができていない
- ・稽古中、飛沫を気にしすぎて掛け声をはっきりかけづらい
- ・マスクを着用しているので声を張ってお稽古し続けなければならず、コロナ前のお稽古より疲れる
- ・距離を取りマスクとパーテーション越しで大きな声でお稽古しなければならず、気づくと近づいていることがある
- ・マスクをすると会話が聞こえにくく、特に高齢の方には厳しい環境となる
- ・換気のため稽古場の窓を開けているが、風で譜面は飛び、雨の時は吹き込み楽器にも酷な状況



マスクを着用、ビニールシートを使用してお稽古。お弟子さんの間にはアクリル板を設置



N95 風マスクのできあがり

### 市販の不織布マスクを 密着度の高い“N95 風”に

新型コロナウイルスは、感染者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを直接吸い込んだり（飛沫感染）、触れる（接触感染）ことで感染が拡大します。WHO による最新のガイドライン（2021 年 7 月）では、感染者が飛ばした飛沫核（エアロゾル）から空気感染の可能性も指摘されています。飛沫の中に生きたウイルスが多ければ、感染率が高くなります。予防には手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保はもちろん、換気とマスクの着用が重要なポイントとなります。マスクは性能が高く、適したサイズのもの正しく着用することで予防効果が上がりますが、医療用のサージカルマスク、N95 等性能の高いものは入手が困難です。しかし、市販の不織布マスクでも少し工夫すれば、N95 に近い予防効果が得られます。いろいろな方法を試しましたが、写真のようにいせ込んで（丸みをもたせて）、側面をステープラーで留めるのが簡単で使用感もよいです。ぜひ試してみてください。（杵屋佐吉）



市販の不織布マスク。中央から上下にプリーツがあるものは、膨らみのあるほうが表（外側）です。



表裏を間違えないようにして、縦方向に広げます。



上下のプリーツを形よくいせ込み、ステープラーで左右 2 箇所ずつ留めて完成です。



ステープラーで留める位置や角度を変えることで、フィット感も変わります。